

培養実験エリアの運用について

検討したいこと

- ・ 実験室と CO2 インキュベータの利用が非常に多い状況に対する改善策
- ・ コニカルチューブ・FACS チューブ用遠心機の利用方法

実験室と CO2 インキュベータについて

◎ 現状について

- ・ 実験室
 - 特に午前中に利用が多く、予約が取れずに困っているという連絡が入ることもある。
 - 予約しているが実際には利用していない時間帯も多い様子である。
 - 予約が取れない状態を解消するため、利用の方法や予約の方法について検討したい。
- ・ CO2 インキュベータ
 - 7 月には全ての棚が予約されている状態であった。
 - 8 月以降、わずかに空きができていますが、ほとんどの棚が予約されている状態である。
 - 新規の利用者が使用できるようにするため、コンタミ等のトラブルが発生した場合に対処できるようにするため、できるだけ余裕がある状態を保つようにしたい。

◎ 検討案

- ・ 実験室の利用について
 - クリーンベンチが不要な作業など、培養実験室をしなくてもいい場合は、別の場所(分析エリアの実験台など)を使用する。
 - 必要な時間だけ予約し、使用しない時間帯については速やかにキャンセルする。
(実験室を使用しない時間が 1 時間以上ある場合は、その時間帯の予約をキャンセルする?)
 - 実験室 1~5 が空いていない場合には、実験室 6 も利用可能とする。
- ・ CO2 インキュベータの利用について
 - インキュベータの台数を増やすのは難しいので、同一講座で予約できる段数を制限する。
講座で 1 名利用の場合は 2 段まで。講座で 2 名以上利用の場合は 4 段までとする。

コニカルチューブ・FACS チューブ用遠心機について

◎ 現状について

これまでフロア型 2 台で運用していたが、増設の要望があったため、新たに 1 台設置した。フロア型の要望であったが、設置スペース等の都合により、卓上型を設置した。現在以下の 3 台で運用している。

- ・フロア型遠心機 5930 クボタ（2012 年設置）
 - 15mL チューブ最大 48 本
 - 50mL チューブ最大 24 本
 - FACS チューブ最大 80 本

- ・フロア型遠心機 5911 クボタ（2019 年設置）
 - 15mL チューブ最大 32 本
 - 50mL チューブ最大 16 本
 - FACS チューブ最大 48 本

- ・卓上冷却遠心機 S300TR クボタ（2022 年設置）
 - 15mL チューブ最大 8 本
 - 50mL チューブ最大 4 本
 - FACS チューブ最大 16 本

◎ 利用方法について

- ・ホームページ予約ではなく、装置の傍にある予約表に記入して使用する。
(実験室同様、必要な時間だけ予約するようお願いいたします。)
- ・サンプルの本数が少ない場合には、卓上遠心機の利用もご検討ください。
- ・もし遠心機が 3 台とも使用中ということがあれば、分析エリアの遠心機室に設置しているフロア型冷却遠心機(クボタ 8900)も使用可能です。